

安全上のご注意

商品を安全にご使用いただくために、必ず守っていただきたい事項です。
個々の商品の注意事項は、各商品の説明ページにも記載されていますので、併せてご確認ください。

窓（網戸）、シャッターについての注意事項

⚠ 注意



[強制]

はずれ止めが正しくセットされていることを確認してください。
はずれ止めが正しくセットされていないと、窓（網戸）がはずれて落下し、
思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

風が強い時は窓を閉め、必ずロックしてください。
ロックしないと、窓が風で急に開閉し、窓の破損や落下により、
思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

窓（網戸）にぶつかったり、寄りかかったり、無理な力をかけたりしないで
ください。窓（網戸）の破損や落下により、思わぬ事故やけがにつながる
おそれがあります。



[禁止]

窓（網戸）の取り付け、取りはずし、調整、お手入れをする以外は、
お掃除モードにしないでください。
窓（網戸）の破損や転落など、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

ハンドルなどにぶらさがって遊ばないでください。
ハンドルなどが破損し、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。
特にお子様にはご注意ください。



[強制]

ベッドや机などを配置する場合は、踏み台にならないよう配慮してください。
また、踏み台になるような物がある場合は、小さなお子様が一で窓を開け
られないよう配慮してください。
転落など、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

窓やシャッターの表面や金属部分は、直射日光で熱くなることがあります。
やけどなどしないようご注意ください。



[禁止]

シャッターボックスに乗ったり、はしごをかけたりしないでください。
無理な力をかけると、シャッターの破損や転落など、
思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

強風や大雨の時は、シャッターだけでなく内側の窓も閉め、
必ずロックしてください。シャッターの破損などにより、室内に風や雨が
入り、家屋や家財の損害につながるおそれがあります。

お願い

外出や就寝の際は、必ず窓を閉め、確実にロックしてください。
ロック後、窓が開かないことを確認してください。

窓の近くを通る時は、開いている窓や部品にぶつからないようご注意ください。
窓の破損につながるおそれがあります。

シャッターを無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
シャッターの破損や故障につながるおそれがあります。

⚠ 注意

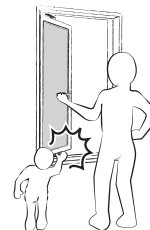
窓（網戸）：たてすべり出し窓・すべり出し窓・内開き網戸 など



[強制]

周囲に人がいないことを確認

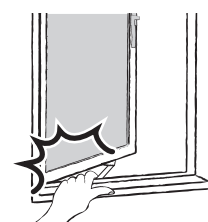
窓（網戸）の開閉は、周囲に人がいないことを確認してから行ってください。窓（網戸）が人にぶつかったり、窓（網戸）で指をはさんだり、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

窓（網戸）と枠のすき間に注意

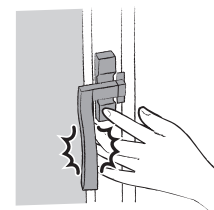
窓（網戸）の開閉時に、窓（網戸）と枠のすき間に手を置かないでください。指をはさむなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

部品のすき間に注意

窓の操作部品や、可動部品のすき間に手を置かないでください。指をはさむなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

ハンドル以外の部位を持って開閉しない

窓（網戸）の開閉は、必ずハンドルを持ってゆっくり操作してください。ハンドル以外の部位を持って開閉すると、指をはさむなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



お願い

窓（網戸）の開閉時に、誤って室外に転落しないようご注意ください。

窓（網戸）の開閉はゆっくり静かに行ってください。
無理な操作や誤った操作、また衝撃のあるような（乱暴な）開閉をすると、窓（網戸）を破損するおそれがあります。

窓（網戸）の開閉は、必ずすべてのカギが解錠された状態で行ってください。
ロックされた状態で開閉操作を行うと、窓（網戸）を破損するおそれがあります。

窓（網戸）、シャッターの調整・お手入れ時の注意事項

⚠ 警告



[禁止]

リモコンの電池交換の際は、はずしたコイン形リチウム電池を放置しないでください。小さなお子様、コイン形リチウム電池を飲み込み、化学やけどや粘膜損傷など、重大な事故やけがにつながるおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



[禁止]

はずしたネジは放置しないでください。そのままネジを放置すると、小さなお子様、飲み込み、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

⚠ 注意



[強制]

お手入れなどで、窓（網戸）をはずして再び取り付けの際は、必ずはずれ止めをセットしてください。正しくセットされていないと、窓（網戸）がはずれて落下し、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

窓をお掃除モードで放置したり、無理な力をかけたりしないでください。窓が破損し、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

周囲に人がいないことを確認し、安全に十分注意して行ってください。窓（網戸）シャッターにぶつかり、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

お手入れの際、窓（網戸）の端部や部品の角にご注意ください。指や手を切ったり、はさんだり、巻き込まれたりするなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

浴室に窓を設置した場合、室内側から大量の水をかけないでください。漏水につながるおそれがあります。

お願い

お手入れ時に、誤って室外に転落しないようご注意ください。

不安定な台の上などで作業を行わないでください。

調整・お手入れ時に、誤って窓（網戸）を倒したり、落下させたりしないようご注意ください。

指定されたネジ以外は絶対にはずさないでください。
万一、はずしてしまった場合は、すぐにネジを付けてください。

ご使用にあたって

商品を長く正常な状態でご使用いただくために、日常生活の中で気をつけていただきたい事項です。

第1章

安全にお使いいただくために

●窓やドア、網戸の点検について

長期間、窓やドア、引戸をご使用になると、ネジのゆるみが発生することがあります。お手入れの際、商品のネジ部品がはずれたり、ゆるんだりしていないことを点検してください。

(→ P.191「第6章 保守点検」)

●シャッターの点検について

長期間シャッターをご使用になると、部品の摩耗や劣化、汚れにより、開閉しにくくなる場合があります。定期的に清掃、点検を行ってください。

(→ P.191「第6章 保守点検」)

●ガラスの交換について

本商品のガラスは、特殊な方法で施工しています。

窓またはユニットでの交換となりますので、当社お客様相談室に修理依頼をしてください。

(☎ 0120-20-4134)

知っていただきたい現象

日常生活の中で『何かおかしいな…』と感じることがある現象も、窓の不具合ではなく、商品の特性に関連して発生する場合があります。

ここでは発生する可能性のある現象について、商品の特性を踏まえて説明しています。

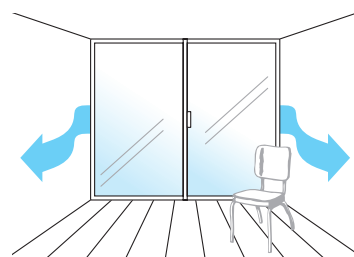
窓を閉めきった時のすき間風

窓を閉めきった時のすき間をふさぐために、枠や窓にはパッキンなどの気密部品を取り付けています。強風や季節風などによって室内外に気圧差が生じると、この気密部品の接触部分からすき間風が発生します。

これは自然現象のひとつであり完全になくすことはできません。

ただし、すき間風があまりに激しい場合は、窓各部の調整が不十分であることが考えられますので、調整をお願いします。

なお、換気扇を使用した場合は、強制的に空気を室外に排出するため、気密材と枠または窓の接触部分から空気が入ることがあります。



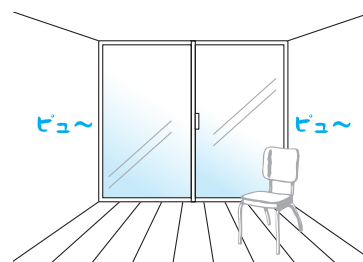
窓の笛鳴り現象

窓を閉めきった状態で換気扇を使用した場合、強制的に空気が室外に排出されると共に、同じ量の空気が窓のすき間などから室内に入り込もうとします。気密部品と枠または窓の接触部分を通り抜ける空気が、笛を吹く状態と同じ現象を起こします。

これは自然現象のひとつであり完全になくすことはできません。

ただし、この現象は窓各部分の調整が不十分である時にも生じますので、調整をお願いいたします。

なお、強風時や高層マンションのように常時風が吹き抜ける所においても笛鳴り現象が起こることがあります。



結露について

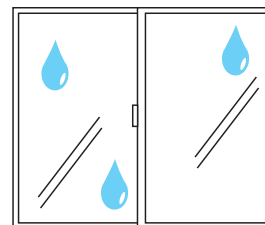
結露は、室内外の温度差が大きく室内の湿度が高い場合、季節を問わず発生します。

これは自然現象のひとつであり、窓の不具合ではありません。

また、室内の環境状況によっては、断熱窓を使用していても発生する場合があります。

完全になくすことはできませんが、できるだけ発生を抑える方法として下記の点を心がけてください。

- ① 過度な加湿の防止（上限 60%）
- ② 換気の促進
- ③ 室温は適温に保つ
- ④ 空気の流れをよくする



『脱・結露のススメ』というパンフレットをご用意しております。

ご要望の方は当社お客様相談室までご連絡ください。 (☎ 0120-20-4134)

ガラスの熱割れについて

ガラスは熱によって膨張する性質を持っているため、直接日射を受ける部分と窓枠などの中に隠れている部分とで、温度の差による熱膨張差が生じます。

この熱膨張差がガラスの持っている「強度」を超えた場合、ガラスが割れます。

これが網入りガラスに多く見られる「熱割れ」と呼ばれる現象です。

ガラスに割れが発生した場合、すみやかに交換してください。

熱割れを予防するポイント

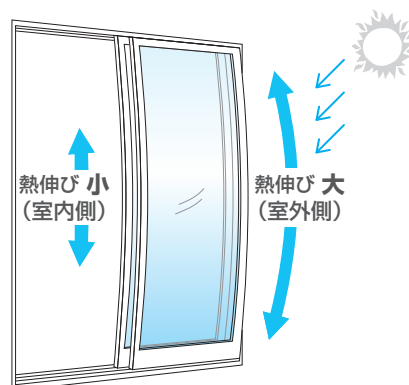
- ガラス面にカーテンやブラインドを密着させない。
- 暖房・冷房の温風・冷風をガラスに直接当てない。
- ガラス面に紙を貼ったり、ペンキを塗ったりしない。
- 室内に熱だまりを作らない。

トリプルガラスの熱反りについて

トリプルガラスは室内外の温度を伝えにくい構造になっているため、日差しや室内外の温度差により、ガラス本体室外側の面と、室内側の面で伸びる量に差が生じます。これにより、反りが発生する場合があります。

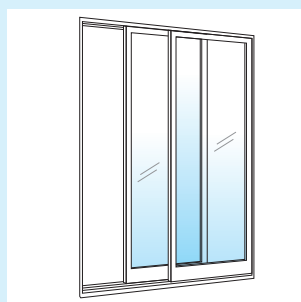
また立地条件、ひさしの形状により反り量は一定ではありません。一時的な現象であり、ガラス本体の室外側と室内側の表面温度差が小さくなると元に戻ります。

特に、内外の窓が同じ位置で重なり合う状態では、窓の間に熱がたまり、異常な高温状態となる場合があります。



熱反りを予防するポイント

- 日中、引違い窓等を開け放して使う際は、2枚の窓が完全に重なり合わないよう、ずらして使用する。



トリプルガラスのゆがみについて

ガラス表面に反射して映る映像がゆがんで見えることがありますが、中空ガラスの構造上避けられない現象です。

トリプルガラスの中空層は密閉された構造のため、温度や気圧の変化などによって内部の空気の収縮や膨張が起こります。これにより、ガラスが湾曲しガラスの表面に反射して映る映像がゆがんで見えます。

内開きのできる窓の室内側への水滴落下について

雨が降った際、窓に雨水がたまっている状態で内開き操作を行うと、室内側に水がこぼれ落ちる場合があります。

室内側に窓を開くため、完全になくすことはできません。

窓に水がたまっている場合は、ご注意ください。

ステンレスのさびについて

ステンレスは表面に独自の保護皮膜が形成されます。この皮膜は空気中の酸素が触れている間は優れた耐食性を示す性質を持っていますが、表面が汚れると酸素との接触が妨げられ、さびが発生することがあります。

特に下記のような場合は、さびが発生しやすくなります。

- 塩素系の洗剤がステンレス部に付着した場合
- 海岸沿いなどの環境において塩分が付着した場合
- 他の物のさびがステンレス表面に付着した場合（もらいさび）など

さびを予防するポイント

- 一旦発生したさびは落とすことが難しいため、日頃から中性洗剤（1～2%の水溶液）で、こまめにお手入れをする。

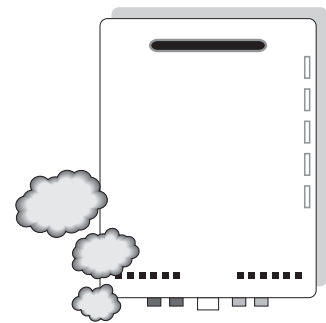
ガス給湯器などの排気ガスによる腐食について

ガス給湯器などからの排気ガスが、アルミ部材の塗膜のはがれなどの表面異常の原因となることがあります。

ガス給湯器などの排気ガスの成分には、微量ながら硫黄分が含まれている場合があります。この硫黄分が空気中や排気ガスの水分と化学反応を起こして、亜硫酸、硫酸のような強い腐食性の酸を作ることがあります。

これらの酸が塗膜表面に付着すると、塗膜自体を劣化させ、塗膜の下のアルミに達し、アルミとの化学反応によって塗膜はがれなどの表面異常を引き起こすことがあります。

また、ガス給湯器や車の排気ガスが直接当たらなくても、周辺の通気が悪く、排気ガスが滞留するような場所にアルミを使用した場合でも塗膜のはがれなどが起こるおそれがあります。



腐食を予防するポイント

- ガス給湯器および車の排気ガスが直接アルミに当たらないようにする。
- 排気口近辺にアルミ部材を設置する場合は、こまめにお手入れし、周辺の通気を確認したうえで使用する。

樹脂製商品への殺虫剤などの薬剤散布によるひび割れ、はがれについて

薬剤が付着すると、ひび割れやはがれが発生するおそれがあります。

ひび割れ・はがれを予防するポイント

- 殺虫剤などの薬剤を樹脂表面に塗布・散布・付着させないように注意する。

引違い窓、引違いテラス戸、大開口スライディングの下枠の雨水たまりについて

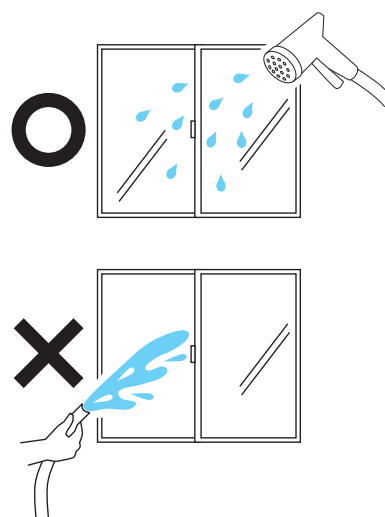
引違い窓、引違いテラス戸、大開口スライディングの下枠に雨水がたまることがあります。これは、窓の水密性能を保持するために構造上必要な状態であり、不具合ではありません。

清掃時の散水による水浸入について

窓を閉めた状態で雨が室内側へ入らないよう、窓にはパッキンなどの気密部品がついています。これは、強風を伴う降雨時を想定した所定の水密性能を確保するためのものですが、窓と枠のすき間を完全に密閉するものではありません。

清掃時に、ホースや高圧洗浄機などで強く水をかけたり、下から上方向に水をかけたりすると、室内側へ水が入る場合があります。これは、水の勢いが強かったり、上方向に水をかけたりしたことで、通常の降雨を想定した窓の水密性能を超える状況となったことによるもので、窓の不具合ではありません。

清掃時は、草花に水やりする程度の水流で、下方向にシャワー状の水がかかるように散水してください。

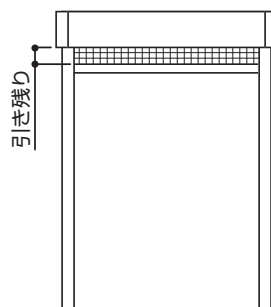


上げ下げロール網戸の引き残りについて

網戸全開時、操作ひものボールピッチにより引き残りが発生します。引き残り量は個体差や使い方により一定ではありません。

これは商品の構造上の特性になります。

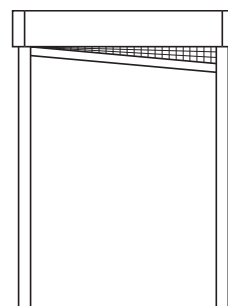
完全になくすことはできませんが、網戸の引き残りを少なくすることができます。詳細については、P.150「引き残りの軽減方法」を参照してください。



上げ下げロール網戸の片下がりについて

網戸全開時、ネット左右の巻き径に差異が生じ、片側が下がること（片下がり）があります。これは商品構造上の特性になります。

完全になくすことはできませんが、網戸の片下がりを少なくすることができます。詳細については、P.147「片下がりの調整方法」を参照してください。

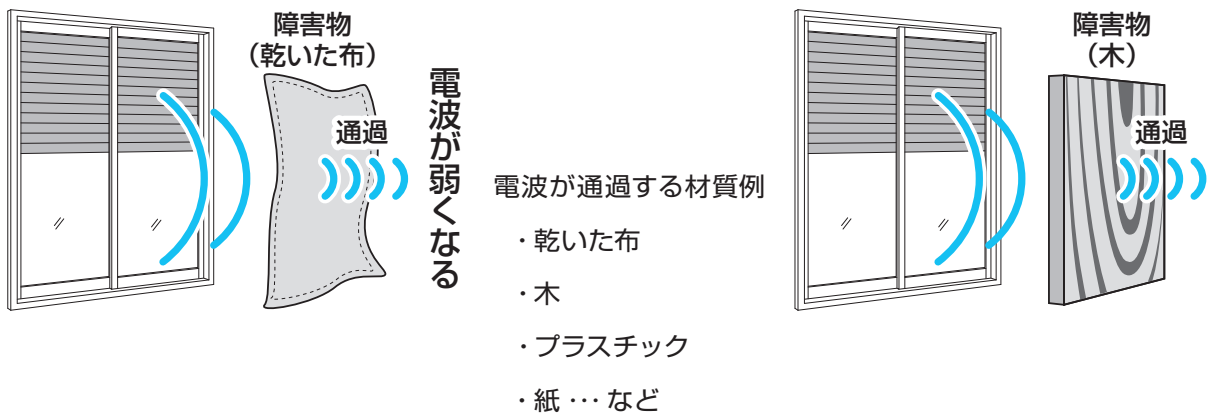


電波の特性について

リモコンとシャッターの間に障害物が多いと、リモコンを操作してもシャッターが動かない場合があります。

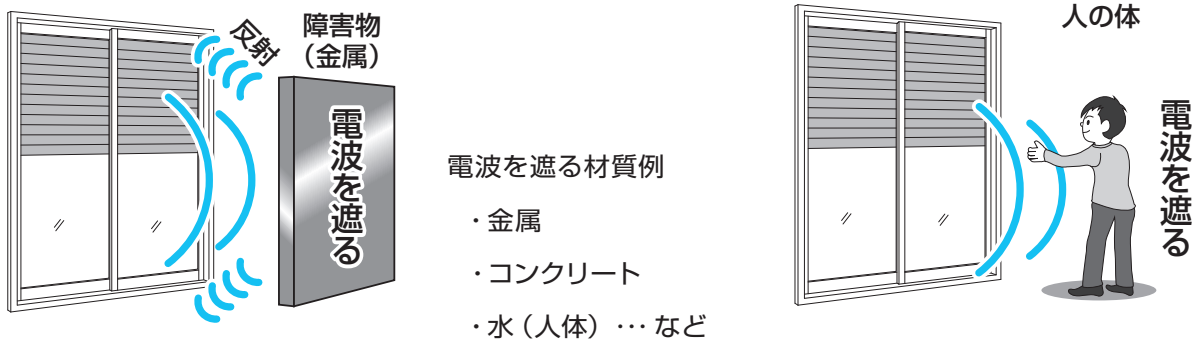
● 電波は、障害物（乾いた布や木など）を通り抜ける

電波は、障害物の材質によっては通り抜けることができます。ただし、障害物を通り抜ける度に弱くなる特徴があります。



● 電波は、障害物（金属やコンクリート、人の体など）によって遮られる

電波は、障害物の材質によっては遮られることがあります。

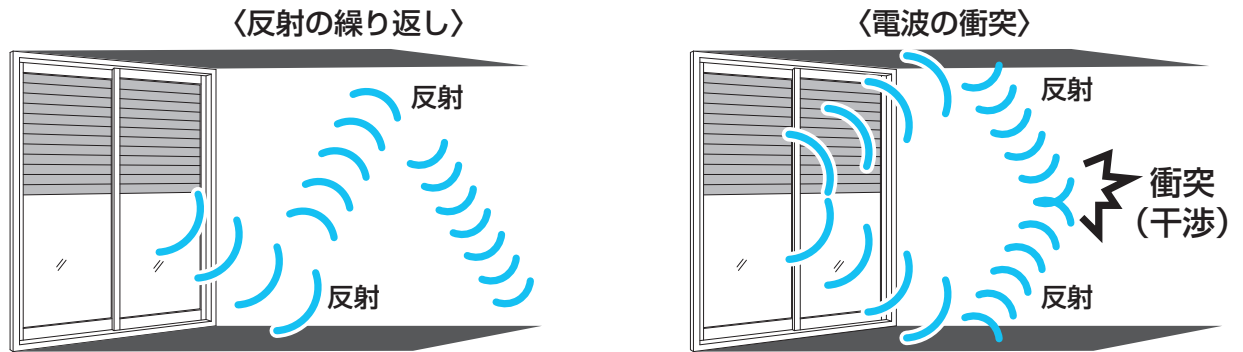


※ 特に金属は電波を反射しやすく、電波を遮断します。

※ 電波を遮る材質・素材として「水」もあります。60%以上が水分と言われる人の体も、電波を遮る障壁となります。

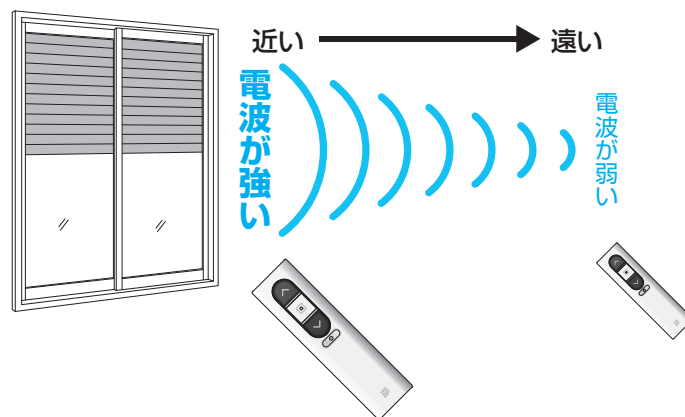
● 電波は、建物などに反射する

電波は、建物の壁や天井、地面などの障害物（特に金属）にあたると反射します。障害物や電波の周波数によって反射の仕方は変化し、複数方向へ乱反射することもあります。ただし、電波は反射を繰り返すことでだんだん弱くなります。また、反射した電波同士が衝突し、弱くなることもあります。



● 電波は遠くなるほど弱くなる

電波は、基本的に届くまでの距離が遠くなるほど弱くなります。



可動網戸の網戸ネットの水膜について

可動網戸に雨などで水滴が付着した状態で網戸を開閉すると、開閉が重くなったり、網戸ネットに水膜がはり、網戸からの眺望が悪くなることがあります。これは、開閉時に折り返した内外のネットが水滴により密着し、こすれあうことで網目の中に水膜ができる現象です。雨などでネットに水滴が付着している場合は、無理に網戸を操作せず、水滴をふき取ってから開閉してください。

シャッターからの光漏れについて

シャッターを閉めても、外からの光を完全に防ぐことはできません。遮光カーテンなどを併用してご使用いただくことをお勧めしています。

シャッター一斉操作の作動開始のタイミングについて

一斉操作を行った際、シャッターが作動し始めるタイミングにズレが生じることがあります。シャッターとリモコンが1台ずつ通信を行っている為で、異常ではありません。

シャッターから落ちる水滴について

シャッターが雨などで濡れている場合、水滴が落ちることがありますので、ゆっくり開閉してください。

網戸からの虫の侵入について

網戸を使用していても、虫の大きさや種類によって完全に侵入を防ぐことはできません。

ロール網戸の使用中のしわ、折れ目、たるみについて

ロール網戸を使用中、しわ、折れ目、たるみが発生することがありますが、商品の性能には問題ありません。ロール網戸の構造上さけられない現象です。

ガラスに浮き出る吸盤やラベルの跡について

ガラス表面が曇った時など、製造や施工の際に使用する吸盤の跡や、施工時に貼ってあるラベルの跡が浮き出てくる場合があります。これは、ガラスの機能や性能に影響を及ぼすものではありませんが、通常のクリーニングでは除去できない場合があります。中性洗剤で落とすことが難しい場合は、カー用品店やホームセンターで購入できる「自動車用油膜除去剤」（酸化セリウム配合）で除去できます。ご使用にあたっては、「油膜除去剤」に添付されている取扱説明書をよくお読みのうえ、ご使用ください。